

特集

## アリーナが

地域活性化への  
起爆剤となる



提言をきっかけに  
構想がスタート



2020年5月に当時の伊東会頭(左から2人目)とまちづくり・交通委員会八木委員長(左)が知事・市長に提言を行った

福井アリーナの構想は、2020年5月に当所が行った「福井駅周辺地区のまちづくりに関する提言」を契機に動き出した。その後、官民での連携・協議を経て、段階的な計画が策定されてきた。提言では北陸新幹線福井開業を見据え、福井市が高速交通時代にふさわしい県都として、都市機能の充実や環境整備の必要性を訴えた。特に福井駅東口エリアについては、当時福井市文化会館の移転予定地であった東公園(旧市営球場跡地)の立地を活かし、コンベンションや展示会、スポーツイベントなどに対応したアリーナタイプの多目的ホールの建設を提案した。

JR福井駅から程近いことから、域外からの誘客と交流人口拡大、賑わい創出につなげたいとの期待が込められている。

この提言を受け、県・市・商工会議所の3者で「県都にぎわい創生協議会(以下、協議会とする)」を設立。北陸新幹線福井開業及び将来の大坂延伸という好機を活かし、福井駅周辺地区の再生とまちづくりを目的に県都の将来を見据えたビジョンとコンテンツづくりについて議論を重ねることになる。

## アリーナ機能の必要性を共有

協議会のエリアマネジメント部会では、福井市中心市街地に求められる新しい機能として、アリーナのような多目的施設の有用性が議論された。第3回協議会(2021年11月)では、後に策定される「県都グランドデザイン」の目標達成のため、「アリーナ機能と芸術・文化活動の拠点となる機能が必要」との認識で一致。続く第4回協議会(2022年2月)では、福井駅周辺の賑わいづくりを目的に、アリーナ機能の具体化に向けた検討を進めることで合意した。その際、建設候補地として「福井市東公園が福井駅からも近く、中心市街地のにぎわいづくりには最適である」との方向性が示された。



アリーナ機能について検討された県都にぎわい創生協議会

この時期に協議会では、県内におけるアリーナプロジェクトの実現可能性に関する調査をコンサルティング会社へ委託。福井駅前地区において規模5,000人～7,500人収容クラスのアリーナであれば、地元ニーズも大きく、また関係者からも前向きな意見が聞かれ、一定の行政支援のもと、民設民営のアリーナとして事業化の可能性があるという結論を導き出した。

同年8月には現在のアリーナ計画のベースとなる「ふくいアリーナ（仮称）基本構想（案）」を民間会社の協力のもと作成。持続可能な整備・運営



県都グランドデザイン

**県都グランドデザインと  
バスケットボールクラブの誕生**

計画の詳細はこ  
ちらをご覧くだ  
さい。

QRコード

同年10月には、北陸新幹線福井開業へ向けた観光コンテンツの魅力向上策や県都の将来像について議論を重ね、今後のまちづくりの指針となる「県都グランドデザイン」を策定。アリーナを福井駅周辺の交流人口拡大にぎわ



今年8月に事業計画(案)を発表

い創出の中核施設として位置づけ、Bリーグなどのプロスポーツの試合やコンサート、企業展示会といった観光客向けコンテンツの開催、地域スポーツの受け皿としての活用が記された。

2023年には、福井初のプロバスケットボールクラブ「福井ブローウィンズ」がB3リーグに参入。シーズン中31連勝というB3初の記録を達成、ホームゲームで全勝するなど注目が集まり、2024年4月から行われたブレークオフも、トーナメントを勝ち上がり優勝。B2リーグへの昇格でアリーナ構想の機運を高めることとなつた。

**計画の立案から見直しへ**

その一方で、資材高騰や燃料費・人件費の上昇に加え、住民説明会において騒音や渋滞に関する懸念が浮上したことなどから、2024年11月には福井市議会に対し計画の見直しを報告。開業時期が1年遅れる見通しとなつた。今年6月には整備費が最大160億円に上振れる可能性を示唆したが、最終的に福井商工会議所として今年8月に事業計画（案）を発表。事業費は150億円、年間来場者数39万人、運営による経済波及効果年間61億円と再試算し、2028年秋頃の開業を目指すスケジュールが示された。

2024年2月には、経済界が中心となる「福井アリーナ整備・運営に関する基本計画（案）」を策定。概算事業費105億円、年間来場者58万人、経済波及効果年間56億円と試算された。この計画案を踏まえ、福井商工会議所は、福井県知事・県議会議長・福井市長・福井市議会議長に対して、アリーナ整備運営に対する要望活動を展開。民間施設整備に適用できる国庫補助制度の活用への支援や、福井市に対しての土地の無償貸付と固定資産税相当額の支援を依頼した。

# まちに開かれまちとつながる地域交流拠点

「歩きたくなる」まちとして地域を盛り上げる、  
まちに開いた365日県民・市民でにぎわう、自然と立ち寄りたくなるアリーナ



計画の  
詳細はこち  
ら

## 01 整備イメージ



- 北陸新幹線福井開業によりできた人流をさらに福井県全域に波及し、にぎわいの風を巻き起こす。
- プロスポーツやコンサートをはじめとした様々なイベントの開催を通じて、立地を活かした集客を図ることで、まちなかににぎわいを創出する。
- 広場に面して、エントランスホールやサブアリーナ、ショップ等を整備し、日常的に開かれた施設とすることで、多様な人々、多世代の人々の地域交流拠点とする。
- 他にはない独自の演出で福井らしさを創出し、中規模でもキラリとひかるアリーナを目指す。

## 02 配置、平面計画

### (1) 配置計画上の配慮

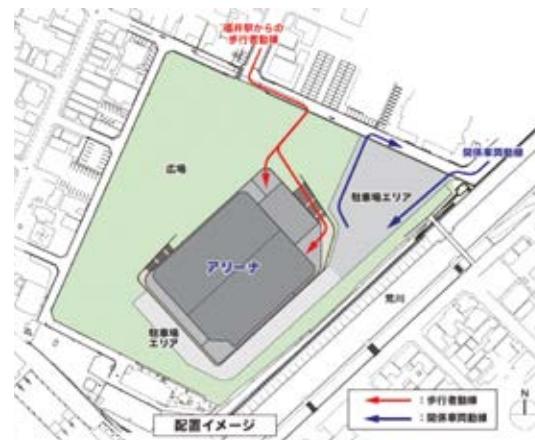
- 歩行者動線と関係車両動線を明確に分離した、安全な動線計画
- 周辺の住宅地からの距離を確保したアリーナ配置
- 住宅地への車両の出入りを抑えた、荒川沿いの駐車場配置

### (2) アリーナ設計上の配慮

- 日常的な利用を想定し、広場に面してエントランスホールやサブアリーナ、ショップ等を整備
- 周囲に音が漏れにくい、鉄筋コンクリート造の外壁

### (3) 防災上の配慮

- 災害における帰宅困難者や物資の一時集結等の役割を担うアリーナ
- 大地震時の損傷を抑えることを目標とした、耐震安全性II類のアリーナ



## 03 アリーナの概要

|      |   |
|------|---|
| 名称   | 福井アリーナ(仮称)  |
| 計画地  | 福井市東公園内   |
| 延床面積 | 約13,000m <sup>2</sup>   |
| 建築面積 | 約8,250m <sup>2</sup>  |
| 施設規模 | メイン・サブアリーナ、その他  |
| 付帯設備 | VIP機能、大型映像装置、音響、演出照明装置他   |
| 席数   | プロスポーツ時 約5,000席<br>コンサート時 4,500席  |
| 利用想定 | スポーツ(Bリーグ等)、ライブ、コンサート<br>MICE(セミナー、コンベンション、展示会等)<br>県民・市利用(地域行事、学校行事、部活動、<br>スポーツ少年団、県民・市民スポーツ) |

## 04 整備・運営方針

### (1) にぎわいの創出

- 「福井ブローウインズ」のホームアリーナを想定し、新B1(Bプレミア)基準を満たすよう計画

### (2) 多世代交流の促進

- プロスポーツ、コンサート等の開催により、県内外の多世代が集い、交流できる県都にふさわしい施設

### (3) 防災機能への貢献

- 災害における帰宅困難者支援や物資の一時集結の役割を担い、地域の防災機能を強化

### (4) 地域共生の推進

- 周辺の良好な住環境の維持・保全に最大限配慮

### (5) コスト意識の徹底

- 最低限の機能で計画し、床面積を最小化。構造的にも維持管理においても最も合理的かつローコストな計画



## ROUND TABLE TALK with Local Companies

### 誌面座談会

#### まちなかの商業者が語る、アリーナの可能性

福井駅周辺で事業を展開している商業者の方々が集まり、福井アリーナの計画に対して議論が白熱した。背景には、経営者目線で見えたアリーナの可能性と、周辺ビジネスへの波及、今後の課題が見えてきた。



撮影協力:コートヤード・バイ・マリオット福井

#### スポーツが持つ熱狂力



コートヤード・バイ・マリオット福井 野中あづさ 総支配人

神戸市出身。2008年、ウェスティンホテル大阪入社。ホテルエンドマネージャーとしてキャリアを経て、ザ・リッツ・カールトン大阪、ザ・リッツ・カールトン東京、シェラトングランドホテル広島を経て、本年7月より総支配人。

野中…前任地の広島では、野球・サッカー・バスケットと、プロスポーツが地元との繋がりを広げる力は非常に強いことを実感した。

大津屋…かつてイギリスに住んでいた際、サッカーが生活の中心に根付いており、その「象徴的な存在」がスタジアムという建物だった。ファンの熱狂ぶり、感動、力強さを感じた経験が印象深い。

齊藤…プロのバーレーボールリーグでは、試合前の選手のウォーミングアップを見れるプレミア席に何十万円も払う人がいる。男子プロ選手は身長が高くカッコ良い。集客で重要な要素だ。また、小さい頃からスポーツを見てファンになれば、自然と故郷のことが頭に出てくる。このような愛着が将来故郷

…前田地の広島では、野球・サッカー・バスケットと、プロスポーツが地元との繋がりを広げる力は非常に強いことを実感した。

大津屋…かつてイギリスに住んでいた際、サッカーが生活の中心に根付いており、その「象徴的な存在」がスタジアムという建物だった。ファンの熱狂ぶり、感動、力強さを感じた経験が印象深い。

に戻る一つのきっかけになるかもしれない。また、スポーツでは試合前後も含めた「期待」や「余韻」が盛り上がりの起点になる。試合後に周辺の店で飲食するなどの繋がりが生まれる。

大津屋…サンドームなど郊外施設の場合は、車での移動になるため、そのまま帰ってしまうことや、余韻を楽しめないのは極めてもつたまない。

#### 都市機能と利便性の強化



(株)ぽんた 齋藤敏幸 社長

22歳で起業し、福井駅前にアパレルショップをオープン。2004年に異業種の飲食業に参入。「個室居酒屋ぽんた本店」「くずし割烹ぽんた」「アヴォロンテ」などのオリジナルブランドのほか、フランチャイジーとしても出店。現在は16店舗を運営する。

景山…全天候型の施設は、雪国の福井にはとても有効だ。ハピテラスができた当初は「誰が使うのか」とずいぶん言われたが、実際は毎週末にイベントが開催されるようになつた。野球など屋外スポーツでの暑さや寒さといった懸念も少なくなる。そんな施設が駅から徒歩圏内にできるのはとても良い。一方、高齢者層や若年層の「過ごす

…以前の駅前の飲食店はチエーン店ばかりだったが、インターネットやスマートフォンの普及により自身で検索して、福井の美味しい店舗情報を知つたり、ハピリンができる駅近くでも本格的な福井の食を提供する店が増えた。北陸新幹線という「ターポ機能」も追い風となり、飲食が一気に活性化した気がする。

齊藤…以前の駅前の飲食店はチエーン店ばかりだったが、インターネットやスマートフォンの普及により自身で検索して、福井の美味しい店舗情報を知つたり、ハピリンができる駅近くでも本格的な福井の食を提供する店が増えた。北陸新幹線という「ターポ機能」も追い風となり、飲食が一気に活性化した気がする。

場所」「買い物する場所」が中心部に足りない。所得と時間にゆとりがある層が駅周辺で日常的に過ごせる場所がもっと必要だ。若年層にとつても洋服屋や雑貨店が少なく、観光客や試合等の観戦客が何か買おうと思つても、買

る。 齋藤…アリーナや駅周辺地域全体で導線や利便性を考えるべき。公共交通機関、特にバスの本数が、以前に比べてかなり少なくなつた。バスや電車が儲からないから本数を減らし、さらに儲からないくなるという悪循環が起きてい

大人は車に乗れるが、学生や子供が移動手段を失っている現状は残念だ。

**大津屋**・新幹線開業で駅周辺の交流人口が増えているのは実感しているので、そういったハード・ソフトの両面で整備はもっと強化されてほしい。

### 将来への先行投資の意義

**齋藤**・アリーナ建設は一種の投資と考えられる。行政資金も含め、今回使わなかつたら次は何に投資するのか。

医療や高齢者向けサービスなども良いが、個人的にはこのアリーナは非常に良い投資だと思う。各地でアリーナ計画が進む中で、我が県だけやらない選択肢は、本当に置き去りになることを意味する。人口減少は避けられない状況。昨年県内で成人した数は約7,600人だが、昨年産まれた福井県の子供の数は約4,300人と20年前と比べ激減している。学校を卒業したら県外にそのまま出ていく人もいるし、20年後に生まれてくる子供は2,000人を切ると思う。地方は今後インフラやライフラインが保たれない時代にもなりかねない。だからこそ福井市の中心は機能を固めコンパクトに強くなることが必要。県都の福井市がダメになつたら、県全体がダメになる。

**野中**・今年県外から移住して、福井



(一社)福井県クリエイター協会 景山直恵 会長  
デザインコンサルタントとして、県内外のヒット商品開発に携わる。協会としてはふくまちブロック内 Playce を中心に駅前近辺でクリエイターと事業者などのかけ橋となる相談窓口活動を展開。福井県政策デザイン／アドバイザーも務める。

の教育環境や生活基盤が他地域に比べとても恵まれていると感じる。アリーナを通じた新しいビジネスが創出されれば、福井の文化に根付く人々が長く働けるようになるとと思うし、健康なシニアの方々が働ける場所があることは、地域活性化につながるはず。将来への先行投資という点でも「今アリーナをつくる方が将来的なリスクが高いのでは」と他の都市と比較しても感じる。

**景山**・かつて福井放送会館にあった「カルチャーセンター」にはお茶や生け花、陶芸などの教室に通う人々が大勢集まつた。佐賀県の佐賀アリーナでは教室にできる部屋や空間があると聞いており、活用の幅が広がると思う。

**大津屋**・一般市民の方にはプロスポーツが優先順位の1位のようないい印象を与えてしまつて。M・I・C・Eなら平日での利用機会が増える。商工会議所などが主催の学生向け就職イベントやセミナーは、アクセスの利便性を考えると郊外より駅前の会場が良い。学生も全員が車持つているわけではない。他にも例えばアニメの歌を集めたコンサートやコスプレなどといったサブカル系のイベントも需要が高いかもしない。



株大津屋 大津屋孫左衛門 第三十代当主  
ダイニングコンビニオレンジBOXの店舗運営の他、福井駅近辺では食品・地酒・雑貨・工芸品などを取り扱うセレクトショップ「福人喜」のほか飲食事業を展開。2021年に「ふるさと納税関連事業」を推進し新会社を設立。2023年10月より第三十代当主に就任。

**大津屋**・施設が「行政所有ではない」というスキームが十分に伝わっていないことも、批判的な意見を生んでいるのだろう。日数的には県民・市民の利用が優先されている。部活の大会とかもプロ仕様で施設利用できるだろうし、学校行事とかもすごく心に残り、思い出やこの地域へのシビックプライドみたいなものに繋がる。こういった優位性を伝えることで、見え方は変わつてくるはずだ。

**大津屋**・施設が「行政所有ではない」というスキームが十分に伝わっていないことも、批判的な意見を生んでいるのだろう。日数的には県民・市民の利用が優先されている。部活の大会とかもプロ仕様で施設利用できるだろうし、学校行事とかもすごく心に残り、思い出やこの地域へのシビックプライドみたいなものに繋がる。こういった優位性を伝えることで、見え方は変わつてくるはずだ。



## INTERVIEW with Fukui Arena

(株)福井アリーナ 社長 梅田 憲一 氏

10月16日付で、福井商工会議所は、福井アリーナ（仮称）の整備や所有を担う会社として新会社を設立した。社長に就任した県都みらい創造委員会の梅田憲一委員長（株）システム研究所会長）に話をうかがった。



井の魅力を存分に体感してもららう。そのきっかけを生み出していきたい。

一方で課題は山積しており、建設費高騰に伴う資金調達をはじめ、開業までに決めるべきことは多い。地元住民の皆様からは懸念や不安の声もいただいている。こうした声に真摯に耳を傾けながら、一つひとつ解決していくなければならない。このプロジェクトを成功させ、その先にあるアリーナの持続的な運営を実現すべく、全力で取り組んでいく。福井アリーナが北陸新幹線開業効果を最大化する起爆剤になると、私はそう信じている。

これまで県都みらい倉造委員会の委員長、そして県都にぎわい創生協議会の座長として、まちなかのにぎわいを広げていくための施策について、商業者や行政機関、議会、一般の方々と幾度となく協議を重ねてきた。このような公共性の高い事業に携わることは意義深いが、同時に非常に緊張感を伴う仕事でもあると感じている。人口減少社会において、交流・関係人口の拡大が地域の発展を左右するという点は間違いない。その中核として期待されるのが多目的アリーナだ。全国各地でアリーナ建設が進む中、福井のように新幹線の停車駅から徒歩圏内という立地は珍しい。アリーナを契機に、県外から福井を訪れ滞在する人口が増え、福

楽しいにぎわいと若者に未来を

北陸新幹線開業による人流の増加と、人口減少が避けられない時代を背景に、この計画は単なる施設整備を超え、県都の機能を駅周辺に集約し、将来的なリスクを低減する先行投資のような位置づけとなつている。スポーツ庁が調べた全国のスタジアム・アリーナの新設・建替構想によれば、2025年1月現在、全国で45件の計画が進行している。全国各地でアリーナ建設が進む中、新幹線停車駅から至近距離にある福井アリーナの立地は極めて稀有であり、域外からの誘客と交流人口拡大を通じたにぎわい創出への期待は大きい。

者が増えていくことがこの計画の長期的な狙いとなつてゐる。アリーナを起点に県内にぎわいを巻き起こし、そのにぎわいを多方面に広げていく循環を構築していくことは、すなわち、将来の福井や地元経済を担う若者へのバトンとなる。そのバトンをしっかりと繋ぐためには、施設の運営面の検討、公共交通や駅周辺の導線機能の強化など、そして最も重要な騒音・渋滞に対する地元住民からの懸念に対し、事業者が真摯に向き合つて、解決策を見つけていくことが必要だ。今後も数々の課題があるが、未来の福井を持続的に発展していくために、これからが正念場を迎える。

## アリーナ建設に関する 今後のスケジュール（予定）

| 時 期          | 内 容    |
|--------------|--------|
| 2026 年 1 月頃～ | 実施設計   |
| 2027 年 1 月頃～ | 建設工事   |
| 2028 年秋頃     | アリーナ完成 |

[お問い合わせ先]  
(株)福井アリーナ  
TEL 0776-33-8275

